



地域と創る広南避難プログラム

～災害の歴史の伝承と 災害に強いまちづくりを目指して～



広島県 呉市立広南中学校
校長 久保好寛

1 はじめに

本校は、昭和23年に呉市立長浜中学校として独立し、平成24年に小中一貫教育校広南中学校（広南学園）として創立しました。学園教育目標「未来を創る」に向けて、総合的な学習の時間を核に地域と共に育つ学校です。この防災の取組も、地域・行政・学校の三位一体となった地域協働であり、そのプログラムの中で、生徒も地域も防災・減災への意識を高め、被災経験を受け継ぎ、地域の若きリーダーとしての資質・能力を身に付けています。

2 広南避難プログラム創作の背景

平成30年7月、呉市では西日本豪雨災害により大きな被害を受けました。校区内の長浜・小坪地区も、土砂災害による道路の通行止めで陸の孤島となり、大きな影響がでました。

地域では自治会の方が中心となり、復興に向けて一生懸命活動していました。その様子を感謝の気持ちで見ていた生徒たちは、「私たちも地域に貢献したい」と思いながらも何をしたらよいのか分からず戸惑っていました。

そのような中避難訓練を行った時、自治会長さんから「災害時においては、中学生みんなの力を貸してほしい」と言われたことが生徒たちの心に火を付けました。西日本豪雨災害の翌年の春、卒業した先輩の中には、豪雨災害で活動するボランティアの

姿を見て、将来、自分もふるさとの防災に役立ちたいと考え、進路先を決めた人がいたことも後輩たちの心を揺り動かしました。

これらの実体験の中から、「災害に強いまちづくりに向けて、中学生としてできることを地域の方と共に行っていきたい」と生徒たちが立ち上がりました。



地域の方との避難訓練

3 具体的な取組

生徒たちは、まず、自分たちに何ができるかを考えるため、地域の方から話を聞き



地域の方からの講話

ました。その結果、たくさんのことが分かってきました。

具体的には、この地域でもっとも怖い災害は、大雨による土砂災害と台風・高潮による海水の浸入であり、これらの災害から人々の命を守るために、地域の方々が砂防ダムや防波堤などを造る働きかけをするなどの取組をしてきたということです。中でも、昭和42年7月9日に西日本を襲った豪雨では、長浜・小坪地区において31名の命が奪われ、その犠牲者の中に、中学生もいたことは衝撃的でした。

このことを知った令和元年度の3年生21名が「広南地区から二度と災害で亡くなる人を出したくない」「この劇を地域の皆さんに観てもらうことで一緒に災害に強いまちづくりを進めるんだ」という強い思いを持って「劇団Smile」を立ち上げ、創作劇「誓い～広南避難プログラムを創る～」を創りました。これは、「過去の地域の自然災害の歴史と先人の知恵、これから予想される豪雨による土砂災害や南海トラフ巨大地震の避難の仕方、本校校舎3階避難所での生活」について住民に分かりやすく啓発するもので、地域防災リーダーも出演するなど、地域も協力を惜しみませんでした。



地域の方も参加した創作劇

そして、昭和42年7月9日の地域に甚大な被害をもたらした土砂災害をはじめとす

る地域の災害の歴史を未来へ伝えるために、防災モニュメント「誓いの碑」を設置しました。この碑は、過去の地域の自然災害と防災の歴史、そして未来の防災を誓うモニュメントであり、令和2年度になって、その碑の前で「7・9広南防災の日」祈念式を実施しました。



地域の方と行った除幕式

4 成果と今後に向けて

創作劇、誓いの碑、祈念式を通して地域の方とともに地域災害の歴史、災害に対する備え、災害時における対応の仕方など、防災について一緒に考え、災害に強いまちづくりを継続的に進めていくことが確認できたことが大きな成果です。

特に、地域の方と協働しながら広南避難プログラムを作成することでふるさとへの感謝の気持ちが生まれ、地域貢献を行い、地域に育てられていることを実感できました。また地域の方は、学校へ協力することで学校から元気ももらい、夢や志を学校と地域で叶えようとする価値を実感できました。これからも、地域と協働して、継続する取組を進めていきたいと考えています。